

登録コード	L2120200	開講年度	2026				
担当教員	伊藤 加奈子			副担当			
授業科目	中国語学概論						
英文授業名	Chinese Linguistics: Introduction						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文第3講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ 【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい現代中国語に関する基礎学力と専門的学力が身についている。			
授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
授業の概要	教科書と補足資料を利用しつつ授業を進めます。用語については、日本語で用いられ流布している意味と、また中国語であっても現代語で流布している意味とは必ずしも一致しない場合もあるため、表面的な意味把握にならないよう留意して進めていきます。						
授業計画	第1回：ガイダンス、中国語の特徴とは 第2回：現代の中国語漢字とピンインなど 第3回：漢字の変遷、規範化について 第4回：「字書」について 第5回：音韻の表記法について 第6回：「韻書」について 第7回：音韻史の時代区分 第8回：中古音について 第9回：「義書」と「方言」について 第10回：語彙について 第11回：外来語について 第12回：基本の文構造について 第13回：「馬氏文通」について 第14回：国語文法から現代の文法観へ 第15回：表現法の変遷、まとめ、授業アンケート 以上は目安であり、授業の進行状況に応じて適宜調整する可能性があります。						
成績評価の方法	授業参加態度（5割）と期末試験（5割）にて評価します。						
成績評価の基準	・卓越している：中国語の文字・音韻・語義・文法それぞれの項目を歴史的な視野から確実に把握した形でポイントを自ら指摘して説明でき、その上で更に不明な点を発見指摘することができる。 ・かなり上にある：中国語の文字・音韻・語義・文法それぞれの項目を歴史的な視野から確実に把握した形でポイントを自ら指摘して説明できる。 ・やや上にある：中国語の文字・音韻・語義・文法それぞれの項目を歴史的な視野から大まかに把握し、且つポイントとなる文法項目を自ら指摘して説明できる。 ・その水準にある：中国語の文字・音韻・語義・文法それぞれの項目を歴史的な視野から大まかに把握することができる。						
事前事後学習の内容	教科書を利用した授業ですが、内容の関連性を重視するため、表記の数字通りには進まない面があります（参照：(3)授業計画）。予習に際してはその点を注意してください。						
履修上の注意	中国語母語話者も勿論受講生として歓迎しますが、語学的な観点から母語を見つめ直すことのできる人を望みます。						
質問、相談への対応	毎週火曜日12：10～13：00のオフィスアワーでは人文学部棟2階で行われている中国語サロンにいます。その他の日時でも、授業以外の研究室にいる時には対応できますので、予めメールで問い合わせてください。 伊藤の授業担当時限は人文学部・人文科学研究科・共通教育シラバスにて確認してください。 メールアドレス：itokana@shinshu-u.ac.jp						
教科書	『中国語の歴史—ことばの変遷・探究の歩み（あじあブックス）』大島正二（著）,大修館書店 2,052円						
参考書	適宜コピー等を配布します。						